

「離されても離れないために～握ろう 祈りのロープ～」

(詩篇61篇)

牧師：原 雅幸

序) 祈りのロープはしっかり握られているか? (1節)

- ・御言葉に向き合う時、「ありのまま」の自分を受け入れる (他人や非現実的な理想像と比べたり、自分を裁いたりしない) と同時に「今のまま」でよい (諦めや自己満足) とせず成長を求めることが健全な姿勢。
- ・1節「私の叫び」というほどの祈りへの熱が私にあるだろうか?

1) 祈りの必要性～危機と敵～

- ・3節「敵」…無冠詞 (特定されない)。たましいの「敵」は、神との交わりを引き離し、互いの交わりから引き離し、いのちの目的から引き離す。
- ・敵は「危機」に乗じてやってくる。危機自体は神に近づく契機にもなるし、神に忠実であった結果、危機が訪れることもある。
- ・コロナ禍において取るよう要請される「物理的距離」は「危機」であり「霊的距離」「心理的距離」を開かせようとする敵の働き易い状況となる。
- ・2節「地の果て」(エルサレムからの物理的・心理的・実際の距離) に追いやられた詩人は「心が衰え果てる」危機の中にいた。

2) 祈りの力～最強の武器～

- ・2節「どうか**及び**がたいほど高い岩」の上に私を導いてください。」が中心的な願い。
 - 神の守りが完全になった場所の比喻＝「御翼の陰」
 - 詩人の時代はエルサレム神殿 (臨在の場) のこと。
 - 私たちにとっては教会の集まり (潜在的に「無敵」)
- ・5節：祈りのうちに答えを確信し告白する詩人＝祈りの力
「私の誓い」…神殿に導かれたなら永遠に主に仕えるということ。4,8節
- *願い (ここで止まってはだめ) →祈り→確信→霊的な力→現実が変わる

3) 祈りの力～霊的タワーに上る～

- ・3節「やぐらとなってくださった」(完了形) 祈りによって霊的に上る。
- ・「やぐら＝Tower」に上るなら、神の視点に近づく。問題のサイズを見誤らないで対処できるようになる。
- ・「やぐら」に上るには7節「恵みとまこと」を「数える」こと



結) 祈りのロープを握ろう～自分のため、仲間のために～

- ・ロープの先は希望の源イエス様が握っていてくれる。
- ・「王」のための祈り (6～7節) =キリスト信仰者相互のための祈り

名前()

① お祈りはロープを握ることに似ています。どこが似ているのでしょうか。

- () イエス様とつながっていることが、お祈りするとわかるから。
- () お祈りしていくと、心が神さまに近づいていけるから。
- () お祈りすると、イエス様から力が流れてくるから。
- () その他

② 教会に行けなくなることが、長引くと、どんなピンチが起こりますか。

- () 神様から心が離れやすくなる。
- () 教会の仲間から心が離れやすくなる。
- () 自分の生きる意味や目的がわからなくなってしまう。
- () その他
- () 特にピンチにはならないと思う



③ 先週、神さまがどんな良いことをしてくれたか、(当たり前と思うことも)

思い出して数えてみましょう。心がどんなふうになるかな?

みんなで一週間考えてみよう!

～教会クイズ(教理問答)～

Q015 神さまの救いは、どのようにして明らかになったのですか。

□ □ □ □ □

A015 イエスさまのご □ □ □ □ □ を通してです。

イエスさまは、わたしたちの □ □ □ □ □ を □ □ □ □ □ て

くださるためにこの世に生まれ、十字架にかかって死なれ、わたしたち

に新しい □ □ □ □ □ を与えるために、復活されたのです。